

「青少年の意識・行動と携帯電話に関する調査研究」概要

調査の概要

1. 調査の目的

青少年の携帯電話や出会い系サイトの利用の実態及び行動等に関して研究を行い、青少年の非行防止・健全育成に向けた取組みのための基礎的な資料を得ることを目的として実施。

2. 調査内容

携帯電話等が青少年に与える影響について、青少年の携帯電話の利用状況、青少年の意識・生活等を把握し、これら相互の関係等を調査研究する。

3. 調査方法

警察庁が設置した「青少年問題調査研究会」が作成した調査票に対象者が記入し、回収。調査票は無記名。

4. 調査対象者(4,382人)

一般少年：6府県(宮城県、千葉県、石川県、大阪府、岡山県、大分県)

非行少年：調査期間中に全国で検挙・補導された少年

中学生 2,434人(一般少年男子960人、一般少年女子920人、
非行少年男子374人、非行少年女子180人)

高校生 1,948人(一般少年男子718人、一般少年女子791人、
非行少年男子305人、非行少年女子134人)

注：更に、中学生については、携帯電話の所持・非所持の対比を、高校生については、出会い系サイトの利用・非利用の対比を行った。

5. 調査時期

平成14年9月～14年12月

(非行少年については、平成14年10月～12月)

6. 青少年問題調査研究会

委員長 矢島 正見	中央大学文学部教授
小林 寿一	科学警察研究所犯罪行動科学部少年研究室長
佐々木輝美	国際基督教大学教養学部準教授
保住 正保	警察庁生活安全局少年課少年保護対策室長
耳塚 寛明	お茶の水女子大学文教育学部教授
山本 功	淑徳大学社会学部専任講師

(調査実施時)

木岡 保雅	警察庁生活安全局少年課少年保護対策室長
-------	---------------------

調査結果の概要

1．携帯電話の利用状況

携帯電話の所持についてみると、中学生については、非行少年は一般少年と比べて携帯電話を所持している者が多い（非行中学生男子 52.4%、一般中学生男子 20.4%）ことが明らかとなった。高校生については非行群と一般群に違いはみられなかった。

一般少年と非行少年について、携帯電話の使用状況の違いをみると、非行少年は一般少年と比べて、電話をかけたり、メールを送ったりするために携帯電話（PHSを含む。以下同じ。）を利用することがはるかに多く（電話：非行少年平均 7.7 回、一般少年平均 2.7 回、メール：非行少年の平均 42.6 回、一般少年の平均 30.5 回）そのことで、親（保護者）に怒られたり（非行少年平均 77.0%、一般少年平均 54.8%）もっとお金が欲しいと思ったことが顕著に多い（非行少年平均 60.8%、一般少年平均 42.9%）ことが明らかとなった。さらに、高校生では、携帯電話の料金を払うためにアルバイトをした者が非行群で顕著に多い（非行少年平均 30.6%、一般少年平均 18.4%）ことが明らかとなった。

また、出会い系サイトの利用については、非行少年は一般少年と比べて、出会い系サイトを利用したことがある者が多く（非行少年平均 30.7%、一般少年平均 18.5%）出会い系サイトを利用したことがあるもののうち、出会い系サイトで知り合った人に実際に会った者も多い（非行少年平均 65.1%、一般少年平均 48.4%）ことが示された。さらに、女子の非行少年は一般少年と比べて、出会い系サイトを「援助交際の相手方を探すために利用した」（非行中学生女子 13.5%、一般中学生女子 0%、非行高校生女子 12.2%、一般高校生女子 3.3%）という者や、「年齢を年上と偽って出会い系サイトへの書き込みや送信を行った」（非行中学生女子 46.2%、一般中学生女子 25.9%、非行高校生女子 41.5%、一般高校生女子 12.3%）という者が多く、出会い系サイトへの書き込みや送信の回数も顕著に多い（50 回以上の書き込みや返信：非行中学生女子 15.4%、一般中学生女子 6.9%、非行高校生女子 12.2%、一般高校生女子 1.9%）ことが明らかとなった。

そのほか、出会い系サイトを利用する高校生は利用しない高校生と比べて、携帯電話の利用料金が高く（利用群 1 万 4 千円、非利用群 9 千円）そのことで、親（保護者）に怒られたり（利用群 77.4%、非利用群 54.6%）もっとお金が欲しいと思ったり（利用群 64.8%、非利用群 45.7%）アルバイトをした者が多い（利用群 47.3%、非利用群 24.2%）ことが明らかとなった。

2．携帯電話の問題点

（1）携帯電話への依存度

携帯電話がないと落ち着かない、夜寝るときも気になって携帯電話の電源が切れない、携帯電話を常に見えるところに置いている、携帯電話を持っていないと仲間とのつき合いがうまくいかない、の 4 つの質問項目に

ついて一般少年と非行少年の比較、および出会い系サイト利用群と非利用群の比較を行ったところ、ほぼ全ての項目において、一般少年よりも非行少年、男子よりも女子、そして、出会い系サイト非利用者よりも利用者の方が「そう思う」と答えた者の割合が高く、携帯電話への依存度が高いことが明らかになった。((例) 「そう思う」非行中学生女子 84.7%、一般中学生女子 54.0%)(例) 「そう思う」非行中学生女子 78.8%、一般中学生女子 46.9%)

「携帯電話を常に見えるところに置いている」かどうかを高校生に質問した結果、非行高校生女子の出会い系サイト利用者では 88.1% が「そう思う」と答えており、全体の中でも最高値を示している(全体平均「そう思う」59.2%)。

「携帯電話を持っていないと仲間とのつき合いがうまくいかない」かどうかを質問した結果、一般少年と非行少年とでは「そう思う」と答えた者の割合に 20 ポイント以上の差があり、特に中学生女子においてその差が大きい。(非行中学生女子 48.3%、一般中学生女子 19.7%)

(2) 携帯電話で困ったこと

「携帯電話の使いすぎで寝不足になったこと」等、携帯電話で困ったことについて質問したところ、大部分の項目で(9項目中7項目)一般少年よりも非行少年の方が「ある」と答えた者の割合が高いことが明らかになった((例)自分の携帯の電話番号やメールアドレスが知らないうちに流されたことが「よくある」と「時々ある」の合計:非行中学生女子 54.6%、一般中学生女子 27.8%)。また、出会い系サイト非利用群と利用群の比較においては、8項目で、利用群の方が「ある」と答えた者の割合が高いことが明らかになった((例)携帯電話の使いすぎで寝不足になったことが「よくある」と「時々ある」の合計:非行高校生女子利用群 45.2%、非行高校生女子非利用群 22.5%)。

(3) 携帯電話の悪用

「しつこい電話やメールで嫌がらせをしたこと」等、携帯電話の悪用及び無用の被害に関して質問したところ、9項目中5項目で、一般少年よりも非行少年の方が「ある」と答えた者の割合が高いことが明らかになった((例)しつこく呼び出されたことが「ある」:非行中学生女子 31.9%、一般中学生女子 9.6%)。また、全ての項目において、出会い系サイト非利用群よりも利用群の方が「ある」と答えた者の割合が高いことが明らかになった。((例) しつこい電話やメールで嫌がらせをされたことが「ある」:非行高校生女子利用群 50.0%、非行高校生女子非利用群 16.3%)

3. 暴力感情

むしように暴れたくなること、 ガラスを割ったり、机をこわすなど、物にあたりたくなること、 誰かを殴りたくなること、 親や先生に対してむかつくこと、 自分の気持ちをうまくコントロールできないこと、につい

て質問した結果、全般的に、中学生の携帯電話非所持群よりは所持群の方が（（例）「よくある」と「たまにある」の計：非行中学生女子所持群 59.3%、非行中学生女子非所持群 45.0%）、一般少年よりは非行少年の方が（（例）「よくある」と「たまにある」の計：非行中学生女子 54.5%、一般中学生女子 40.0%）、そして、高校生の出会い系サイト非利用群よりは利用群の方が（（例）「よくある」と「たまにある」の計：非行高校生女子利用群 40.5%、非行高校生女子非利用群 20.8%）、暴力感情が高いことが明らかになった。

4．携帯電話と逸脱行動

夜 10 時過ぎまで友達と遊んでいたこと、友だちをいじめたこと、友だちと酎ハイやビールなどのアルコール類を飲んだこと、たばこを吸ったこと、店からだまって品物をもって来たこと、について質問した結果、一般少年に比べて非行少年は、男女ともに、逸脱経験性が高いことが明らかになった（（例）「ある」：非行少年平均 59.7%、一般少年平均 16.4%）。

中学生の逸脱経験の違いを見た結果、一般群・非行群を問わず、また、男女ともに、携帯電話を持っている者は持っていない者に比べ、逸脱経験性が明確に高いことが明らかになった（（例）「ある」：中学生所持群 34.6%、中学生非所持群 12.6%）。

高校生の逸脱経験の違いを見た結果、一般群・非行群を問わず、また、男女ともに、出会い系サイトを利用群は非利用群に比べ、逸脱経験性が高い（（例）「ある」：高校生利用群 52.5%、高校生非利用群 27.9%）ことが明らかになった。

5．携帯電話と公衆の場でのマナー違反 - 経験と意識 -

「電車や路上、通路などで地べた座りをする」等、公衆の場におけるマナー違反に関する 8 項目について、経験と意識の次元から質問した結果、非行少年は一般少年に比べ、男女ともに、マナー違反の経験性の高いことが明らかになった（（例）「電車や路上、通路などで地べた座りをする」について「よくする」：非行少年平均 31.1%、一般少年平均 13.5%）。また、もしマナー違反をした場合、他人の視線が気になるか、という意識の次元でも、非行少年は一般少年に比べ、男女ともに、他人の視線を気にしないという結果が明らかになった（（例）「電車内や路上、通路などで地べた座りをする」について「気にする」、「少し気にする」の合計：非行少年平均 39.4%、一般少年平均 58.5%）。

また、一般中学生男女にあっても、非行中学生男女にあっても、携帯電話所持群は非所持群に比べ、マナー違反の経験性の高いことが明らかになった（（例）「電車やバスのなかで友達数人と大きな声で話しをする」について「よくする」：中学生所持群平均 23.5%、中学生非所持群平均 7.2%）。さらに、もし違反したとしたら他人の視線が気になるか、という意識の次元でも、一般中学生男女、非行中学生男女を問わず、携帯電話を所持群は非所持群に比

べ、他人の視線を気にしないという結果が明らかになった。この傾向は非行中学生女子が最も著しい（（例）「電車やバスのなかで友達数人と大きな声で話しをする」について「気にしない」：非行中学生女子所持群 39.7%、非行中学生女子非所持群 16.9%）。

高校生については、一般高校生男女、非行高校生男女を問わず、出会い系サイトを利用群は非利用群に比べ、マナー違反の経験性の高いことが明らかになった。この傾向は、特に非行高校生において明確に析出されている（（例）「電車やバスで足を大きく開いて座る」について「よくする」：非行高校生男子利用群 29.7%、非行高校生男子非利用群 13.7%、非行高校生女子利用群 39.0%、非行高校生女子非利用群 11.0%）。

6．携帯電話と好ましい性格特性に対する意識

苦手なことでも、こつこつ努力する、場合によっては、欲しいもの、したいことを辛抱したり、がまんする、人にめいわくをかけない、自分の行動に責任を持つ、について質問した結果、一般少年に比べ非行少年は、男女ともに、好ましい性格特性に対して大切と思う意識が低い（（例）「とても大切」：非行中学生女子 30.3%、一般中学生女子 57.0%）ということが明らかになった。

中学生の好ましい性格特性に対して大切と思う意識に違いがあるか否かということについて分析した結果、非行中学生女子に関しては、携帯電話所持群は非所持群よりも、好ましい性格特性を大切に思う意識が低いということが明らかになった（（例）「とても大切」：非行中学生女子所持群 28.0%、非行中学生女子非所持群 48.3%）。

高校生の好ましい性格特性に対して大切に思う意識に利用群・非利用群で違いがあるか否かということについて分析した結果、非行高校生女子にあつては最も明確な差異がみられた（（例）「とても大切」：非行高校生女子利用群 11.9%、非行高校生女子非利用群 45.1%）。

7．学校・家庭生活

(1) 成績の自己評価

「成績はクラスでどのくらいですか」と質問した結果、「よいほう」と「ふつう」という回答の計をみると、中高男女いずれにおいても、非行少年は、一般少年と比べて成績に対する自己評価が低い傾向にあることが明らかになった（非行中学生男子 25.1%、一般中学生男子 64.9%）。

また、中学生の携帯電話の所持別、高校生の出会い系サイト利用別に成績の自己評価を分析した結果、「よいほう」と「ふつう」の計をみると、概して携帯電話を所持している中学生、出会い系サイトを利用したことがある高校生は、成績の自己評価が低い傾向にあることが明らかになった（一般中学生女子所持群 53.7%、一般中学生女子非所持群 69.3%）。

(2) 家庭での勉強

「あなたはふだん、家でどのくらい勉強しますか」と質問した結果、概して、非行少年は一般少年と比べて家庭で勉強していない傾向にあることが明らかになった(「ほとんどしない」: 非行中学生女子 68.9%、一般中学生女子 34.8%)。

中学生の携帯電話の所持別、高校生の出会い系サイトの利用別に家庭での勉強について、家庭で勉強を「ほとんどしない」割合に注目すると、一般群・非行群、また男女いずれであっても、携帯電話を所持している中学生(一般中学生女子所持群 44.6%、一般中学生女子非所持群 28.2%)、出会い系サイトを利用している高校生(一般高校生女子利用群 69.9%、一般高校生女子非利用群 52.0%)は家庭で勉強していない傾向にあるということが明らかになった。

8. 放課後の生活

(1) 部活動等

「あなたは、学校の部活動や地域のスポーツ団体などに参加していますか」と質問した結果、部活動などを「していない」という回答に注目すると、中高男女いずれにおいても、非行少年は一般少年よりも部活動などに参加していない傾向にあることが明らかになった(非行中学生男子 54.5%、一般中学生男子 15.0%)。

中学生の携帯電話の所持別、高校生の出会い系サイト利用別に部活動等について分析した結果、部活動等を「していない」者の割合に注目すると、携帯電話を所持している非行中学生(非行中学生女子所持群 70.9%、非行中学生女子非所持群 51.8%)、出会い系サイトを利用している高校生(非行高校生男子利用群 79.3%、非行高校生男子非利用群 58.9%)は、部活動等に参加していない傾向にあることが明らかになった。

(2) アルバイト

「あなたは、ふだん学校のあるときに(春休みや冬休み以外に)アルバイトをしていますか」と質問した結果、非行高校生は、アルバイトをしている傾向にあることが明らかになった(非行高校生男子 34.9%、一般高校生男子 21.5%)。

また、高校生の学期中のアルバイトについて分析したところ、非行高校生女子を除き、出会い系サイトを利用群は、非利用群よりもアルバイトをしている傾向にあることが明らかになった(一般高校生男子利用群 40.5%、非利用群 18.8%)。

9. 地域社会との関わり

一般少年と非行少年について、地域社会との関わりの違いを見た結果、中学生については、非行少年は一般少年と比べて、相対的に、居住する地域で

青少年の有害環境に対する接触が容易であると考えており、地域の遵法的な大人との結びつきが弱く、各種社会参加活動に対する参加が少ないことが明らかとなった。この傾向は男子よりも女子において顕著であった。(例)「地域の中で中学生がタバコを買うのは簡単だ」について「よくあてはまる」：非行中学生女子 47.2%、一般中学生女子 37.1%)

また、携帯電話を所持する中学生は所持しない中学生よりも、地域の人が青少年の問題行動に対して積極的に働きかけないだろうと考えており(「地域的人是、私をあたたく見守ってくれている」について、「まったくそう思わない」：中学生所持群 22.8%、中学生非所持群 12.5%)、地域の遵法的な大人との結びつきが弱く(「地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい」について、「まったくそう思わない」：中学生所持群 20.4%、中学生非所持群 10.9%)、地域の環境美化活動に対する参加が少ない傾向(「公園の掃除や、花を植えるなど地域をきれいにする活動」への参加経験が「1回もない」：中学生所持群 59.8%、中学生非所持群 51.4%) が明らかとなった。

さらに、出会い系サイトを利用する高校生は利用しない高校生と比べて、住んでいる地域でアダルトビデオや酒、タバコを中学生が入手することが容易であると考えており(「中学生が酒やビールを買うのは簡単だ」について「よくあてはまる」：高校生利用群 50.6%、高校生非利用群 36.4%)、地域の遵法的な大人との結びつきが弱い傾向が示された(「地域の人が喜ぶようなことをしてあげたい」について「まったくそう思わない」：高校生利用群 19.8%、高校生非利用群 12.4%)。